

令和5年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン (国語科)

		低学年	中学年	高学年
身に付けさせたい力	1年	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。 	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。 	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
	2年	<p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 	<p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 	<p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

		低学年	中学年	高学年
児童の実態	1年	<ul style="list-style-type: none"> ○濁音や半濁音、拗音、促音などの使い方や助詞「は」「を」「へ」が身に付いていない児童もいる。 ○ひらがなの学習を終えたが、ひらがなが定着していない児童や、字形の整わない児童がいる。 ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができない児童がいる。 ○読み聞かせは、真剣に聞いている児童が多い。自分の興味・関心に沿って本を選択し、意欲的に読書に取り組んでいる児童が多いが、手に取った本を最後まで読めない児童もいる。 ○ひらがなが定着していないことから、読書への苦手意識がある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙が少ないため、思考したり表現したりする際に、難しそうにする児童もいる。 ○人の目を見て話を聞いたり、思いや考えをもって話を聞いたり話したりすることができないことが多い。そのため豊かに感じとる力、伝え合う力や自分の思いや考えをまとめる力が十分に身に付いていない。 ○読書活動に意欲的に取り組む児童が多い。好きな本を読むが、多様なジャンルに広げ読むことはできていない。調べ学習の際には、図書資料を使うことはわかっているが、活用しきれない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな語彙を用いて、思考に関わる語彙を話や文章の中で自由に使いこなすことのできる児童が少ない。 ○筋道の通った文章となるように、文章の構成や展開を考えたたり、自分の思いや考えが相手に伝わるよう工夫してまとめたりすることのできる児童が少ない。 ○読書に意欲的に取り組む児童が多い。図書室が利用できるときに積極的に通う児童と、それ以外の児童の差が見られる。 ○ICTを用いて学習のまとめを行ったり、学んだことを伝えたりすることができる。

2年	<p>○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解し、文章の中で使うことができない児童がいる。</p> <p>○経験したことや想像したこと、自分の思いや考えなど、伝えたいことを明確にできない児童が多い。</p> <p>○丁寧な言葉と普通の言葉を相手や場面に応じて使い分けようとしている児童が多い。</p> <p>○図書的时间だけではなく、教室遊びの休み時間でも、意欲的に読書をする児童が多い。読み聞かせでも、真剣に聞いている児童が多い。しかし、どのような本を読んでよいのか迷っている児童もいる。</p>	4年	6年
	<p>○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫できる児童が少ない。</p> <p>○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方まで工夫できる児童が少ない。</p> <p>○読書活動に意欲的に取り組む児童が多い。好きな本を読むが、多様なジャンルに広げ読むことはできていない。調べ学習の際には、図書資料を使うことはわかっているが、活用しきれない児童が多い。</p> <p>○物語文・説明文の読解では、叙述に基づいて考えることは得意である。一方、文章から想像したり文脈から推測したりする力は足りない。</p> <p>○文章を書く力に関して、個人差が大きい。</p>		<p>○豊かな語彙を用いて、思考に関わる語彙を話や文章の中で自由に使いこなすことのできる児童が少ない。</p> <p>○自分の思いや考えが相手に伝わるよう工夫してまとめたり、友達との交流の中で自分の考えを広げたりすることができる児童が少ない。</p> <p>○要点をおさえて、話を聞いた後、話の内容をまとめたりすることが苦手な児童が多い。</p> <p>○読書にすすんで取り組める児童が少ない。読む本のジャンルが偏っている。</p>

	低学年	中学年	高学年
	<p><1年></p> <ul style="list-style-type: none"> ○濁音や半濁音、拗音、促音、助詞「は」「を」「へ」などに気をつけながら視写させる。 ○既習文字や漢字を使って言葉集めをし、語彙や知識を増やしていく。 ○相手を意識して話す場を設ける。 ○相手に伝わる話し方のモデルを示す。 ○朝の会のスピーチ活動は年間を通じて継続し、話す力、聞く力、質問の力を伸ばす。 <p>読書活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読書の楽しさを味わえるように、読み聞かせ、図書の時間の活動の工夫を継続する。 ○読書活動を推進し、読書への関心を高めていく。 ○長期休業中には、読書記録カードを活用するなど年間を通して読書に取り組むようにする。 	<p><3年></p> <ul style="list-style-type: none"> ○辞書を身近に置き、すぐに調べられるようにする。自分用の辞書を購入させ、付箋を貼ったり、線を引いたりしながら、言葉に興味をもたせ、語彙を増やす。多くの語彙に触れさせる。 ○聞く・話すことを日常的に意識できるようにする。友達の発表の後に意見や感想を伝え合う機会を多くもつ。人の話に対して自分の思いや考えをいつももつことを意識させる。 ○図書館司書の読み聞かせやブックトークを聞いて、読書に対する関心をさらに高める。おすすめの本の紹介をしたり情報収集のために読書したりする活動を設定する。 	<p><5年></p> <ul style="list-style-type: none"> ○書く時に使える語句や表現を示し、自分の考えを豊かに表現できるようにする。 ○説明的文章では、思考ツールを用いて、それぞれの段落の内容を考えたり、自分の考えを一貫して述べたりすることなどに注意できるようにする。 ○教材と同じテーマの作品や同じ作者の作品を読む場を学年図書として廊下に設置したり、授業の中で設定したりする。 ○物語文では、既習した読解方法の基本的な考え方を整理してから行うことで、班活動や個別に学習を進めていけるようにする。
	<p><2年></p> <ul style="list-style-type: none"> ○助詞、句読点、「」や段落などに気を付けながら視写させる場面を多く取り入れていく。 ○少人数で話し合う機会を意図的に設定し、友達の考えを聞くことで、自分の考えを明確にしていく。 ○出来事を順序よく書いたり、簡単な構成を考えて書いたりすることができるように、接続語に着目させたり、モデルを示したりすることで「書く」ことへの負担を減らしていく。 ○読書の楽しさを味わえるように、読み聞かせ、図書の時間の活動の工夫をする。 ○物語文・説明文の単元において、並行読書に取り組み、読書の幅を広げる。そのために、学年図書コーナーに関連図書を置く。 	<p><4年></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の既存の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめられたりできるように、文章を書く機会を増やす。 ○司会や提案の役割について理解させ、話し合いの規模に応じて役割を果たす経験をさせる。スピーチなど適宜話す機会を設け、筋道を立てた話し方に継続的に取り組み、話すことへの抵抗感をなくす。苦手な児童にはメモ等を作成し、話し合いの回数を増やし、抵抗感をなくす。 ○図書の時間では、じっくりと読書できる雰囲気をつくり、読書の楽しさを味わわせる。また、科学読み物、物語などを授業の中で取り上げる。司書と連携し、調べ学習のために必要な本を選び、情報収集のために読書をする時間を単元によって設ける。 ○文脈や行間から読解できるように文章の中の伏線や登場人物の気持ちの読み取りを思考ツールなどを用いて理解させる。 	<p><6年></p> <ul style="list-style-type: none"> ○書く時に使える語句や表現を示し、自分の考えを豊かに表現できるようにする。また、詩や俳句指導を年間を通して継続して行い、語彙を豊かにする。 ○クラス全体やグループなど話し合う場を工夫したり、意図的に話し合いの場を多く設定したりすることで、友達の考えと自分の考えを比較し、共感したり、補足や反論をしたりできるようにする。 ○自力解決の時間を確保する。 ○伝記や意見文、解説文や新聞など、さまざまなジャンルの本を読む場を授業の中で設定する。

低学年	中学年	高学年
<p><1年></p> <p>【知識及び技能】</p> <p>○平仮名や片仮名、漢字をノートに繰り返し練習することで、ほとんどの児童が平仮名を正しく書けるようになった。また、言葉集めを行い、少しずつではあるが語彙を増やすこともできた。</p> <p>●片仮名・漢字については、未定着の児童がいる。引き続き復習をする。</p> <p>●視写をしたり、短作文をしたりするなど書く機会を増やしていったが、助詞の使い方、拗音、促音の使い方を習得し切れていない児童もいる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>○文章を書く能力には個人差があるが、書き方のモデルを示すことで事柄に沿って「したこと」「見たこと」「話したことや聞いたこと」に視点を当てながら書くことができるようになってきている。</p> <p>○挿絵や写真を用いたワークシートを使用したことで学習意欲が高まり、より確実な内容理解ができた。教科書の文を学習した後にクイズや図鑑作りの言語活動を設定することで、文章を書く機会も増え、書く力を伸ばすことができた。</p> <p>○学習のまとめに、タブレットを活用して作品（ワークシートや図鑑）を創り上げる活動を取り入れることで、意欲的に表現しようとする姿が見られた。</p> <p>【学びに向かう力、人間性】</p> <p>○図書委員会の企画で本の感想を書いたり、並行読書用の図書を学校図書館司書に用意してもらったりすることで、興味をもって取り組んだ。</p> <p>○本読みカードに意欲的に記入し、本に親しんだ。</p> <p>●読み聞かせや図書室の活用に制限があったこともあり、意欲的に読書に取り組めた児童と意欲的に取り組めなかった児童の読書量に差があった。</p>	<p><3年></p> <p>【知識及び技能】</p> <p>○初め・中・終わりを意識させることで3つに分けて読み取る力が身に付いた。</p> <p>○思考ツールを用いることで、考えを整理したり、説明したりすることができた。</p> <p>○読み取りの視点やポイントを示すことで、読み取りをする力、読み取ったことをまとめる力が身に付いてきている。</p> <p>○登場人物の発言や行動に着目し、登場人物の心情をまとめることで、考えを深めることができた。</p> <p>○修飾語の学習を進めることで、修飾語の使い方を理解する児童が増えた。</p> <p>●語彙、漢字の定着は個人差が大きかった。日本語が不自由な児童もいることから、個別の支援などの手立ても加えながら継続して練習させていきたい。</p> <p>●段落構成や接続語、指示語の理解の個人差が大きい。分かっても、活用できていない。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>○新聞やパンフレット、ポスターなど、多様な方法で学習内容をまとめられるようになってきた。</p> <p>○タブレットを通して発表したり、話を聞いたりすることで、学級以外の人と関わって学習することができた。</p> <p>●作文で自分の考えや思いを書くことができたが、個人差が大きい。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○自分の感想や意見を伝えることができる児童は多く、他者の意見を最後まで聞くことがおおむねできた。</p> <p>○読書時間を確実に設けることで、読書に集中して取り組む児童の姿がおおむね見られた。</p> <p>○リフレクションの時間では、学習への取り組み方や学習内容から派生した疑問などを考えることができた。</p>	<p><5年></p> <p>【知識及び技能】</p> <p>○文章を書く時には、語彙を提示したり、簡単な構成メモを作ったりすることで、文章を整理し、まとめて書く力が身に付いた。</p> <p>●語彙、漢字の定着は個人差が大きい。宿題等でフォローしていく。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>○登場人物の行動や描写に着目し、登場人物の心情を読み取り、考えをまとめることができた。</p> <p>○友達の考えを聞いて、新しい考えに気付いたり、取り入れたりしようとする姿が見られた。</p> <p>●自分の考えを、話したり、書いたり表現することができるようになってきた児童が多いが、相手の意図を考えながら反応して聞くことのできない児童が多い。</p> <p>●ICTを用いてまとめを行ったが、作業のスピードや手順が分からない児童は難しい様子であった。</p> <p>【学びに向かう力、人間性】</p> <p>○リフレクションにより、自分のものの見方や考え方を深めようとしたり、学習の見通しをもってすすめようとしたりする児童がみられた。</p> <p>●すすんで読書をする児童と読書をしていない児童の差が大きい。様々なジャンルの本に触れ合えるように、図書館司書と連携していく。</p> <p>○班での活動を多くしていくことで、友達と自己の学習状況を把握し、修正したり付け加えたりすることができた。</p>

<2年>

【知識及び技能】

- 作文やお話作りなどの学習場面で助詞や句読点について繰り返し確認しながら指導し、概ね使いこなせるようになってきている。
- 「」と段落については、まだ、正しく使いこなせない児童も一定数いる。今後も日記など日常の書く場面を活用し、継続的に指導を続けることが必要である。

【思考力・判断力・表現力】

- 友達と話し合う場面で、似ているところや違うところを比べながら聞いたり話したりする視点を与えることで、自分の考えを明確にすることができた。
- 接続詞や順序を表す言葉に注目させたり、順序ごとに内容を分けて見本を示したりすることで、書くことが苦手な児童も自分で書き進めることができた。
- 「はじめ」「中」「終わり」などに分けたワークシートなどを活用して、構成を意識して文章を書くことができた。
- 少人数での話し合いの場を可能な範囲で設定した。意見を持ち、話すことができるようになってきた児童は増えた。しかし、少人数での話し合いを全体での交流に生かそうとすると、発言する児童に限られることがあった。さらに自信をもって話せるように少人数での話し合い場面での良さを生かす指導をしていく。

【学びに向かう力、人間性】

- 週1回の図書の時間は確実に確保し、毎日の読書の時間も落ち着いて読書に取り組むことができた。教材文に関連する本の並行読書にも取り組むことができた。
- 読書の記録を積み重ねることで、達成感を味わせたが、児童の読書の幅を広げることが難しかった。図書館司書や図書館と連携し、本の紹介などを広げられるようにしていく。

<4年>

【知識及び技能】

- 単元の中で作文に取り組む機会を設定したことで、文章構成を意識し、つなぎ言葉を使うなどをして、自分の考えを書くことができるようになってきた。
- 日頃から、他教科でも書く活動を取り入れたり、自主学習の宿題を取り入れたりしているので、書くことへの抵抗は少なくなった。
- 自分の考えを深めて書くことができない児童もいるので、その都度、モデルを示したり、他の児童の文章を紹介したりしながら書くことを広げられるようにする。
- 話し合いが教員中心になってしまい、深め合っていくことが難しいので、話し合いの進め方や話型の指導をしていく必要がある。

【思考力・判断力・表現力】

- グループでの話し合いのときには、話題に沿って、話し合いをすることができた。
- 全体での話し合いの場になると、発言に対して自信がもてず、消極的になってしまう児童が見られる。話すための内容を十分に理解したり、自分の考えをもてるように事前に記述したりする。

【学びに向かう力、人間性】

- 漢字や言葉の学習への意欲が高く、新出漢字の読み書きが定着している。
- 教材文の叙述をもとに、物語文では登場人物の気持ち、説明文では文章構成や筆者の考えなどを読み取ることができた。思考ツールを使い、全体で話し合うことで更に考えを広げたり深めたりすることができた。
- リフレクションにより、学習したことの成果や課題を明確にすることができた。学習の見通しをもって進めようとする児童が見られた。
- 図書利用に制限があったこともあり、児童の読書の幅を広げることが難しかった。図書館司書や図書館と連携し、図書を活用できるようにしていく。
- 自分の考えを発表したり、深め合うために他児童と交流したりすることが難しい。話し合いを焦点化し、どんな考えをもった方が良いかイメージさせてから、取り組ませていく。

<6年>

【知識及び技能】

- 調べ学習だけでなく、文章を書く際には、児童が自分から辞書を身近に置き、意味や漢字を調べるようになった。

【思考力・判断力・表現力】

- 物語文では教材文の叙述をもとに、登場人物の心情の変化を考えながら読み進めることができた。
- グループや全体での交流を意図的に取り入れ、自分の読みを広げたり、深めたりできるようになってきた。
- 思考ツールを使うことで、自分の思いや考えをより伝わるように書き表すことができる児童が増えた反面、個人差が大きい。個別での支援や継続的な指導が必要である。

【学びに向かう力、人間性】

- リフレクションにより、自己の学習をより確かなものにしたたり、学習を自己調整したりすることが少しずつできるようになってきた。
- 読書の習慣があまりなく、読んでいる本の内容に偏りが見られるので、様々なジャンルの本に挑戦できるように支援していく。

